

# 「ありがとうフロムジャパン」公演はロスでキックオフ

2012年3月9日

国際交流基金ロサンゼルス日本文化センター所長

伊藤実佐子

3月11日から、1年。日本はもとより世界各地で、あの日に思いを寄せるイベントが開催されています。犠牲になられた多くの方々への鎮魂、復興のために立ち上がった被災地の人々の健闘ぶり、これまで支援の手を差し伸べてくださった世界中の人々の温かい気持ち、そのすべてに私たちの気持ちを表すために、国際交流基金は、この春、「震災を乗り越えて～日本から世界へ～」([www.overcoming-disaster.jp/](http://www.overcoming-disaster.jp/))と銘打つ総合的な文化事業を企画し、その一環として、東北の民俗芸能に和太鼓の鬼太鼓座(おんでこざ)とその他様々なジャンルの音楽家たちを加えたグループで、3カ国9都市を巡回公演することにしました。

そのキックオフ公演が、ここロサンゼルス市内のアーマンソン劇場で3月2日金曜日の夜に開催されました。収容人数2,100名、ブロードウェイのミュージカルの公演がされる大劇場で、隣のドロシー・チャンドラー劇場は、震災後にお見舞い金をくださったプラシド・ドミンゴ芸術監督が率いるロサンゼルスオペラの本拠地です。



会場となったアーマンソン劇場

ロサンゼルスは、太平洋をはさんで日本列島と面しているし、そばに活断層も走っているの、長い美しい海岸線のあちらこちらに、津波の際の避難経路の表示があります。ですから、東日本大震災は、対岸の火事ではなかったのです。

3月11日直後に、被災地に入った最初の外国からの救援隊も、ココロサンゼルスからでした。当時、総領事館に寄せられた募金や祈りの手紙、子どもたちからの千羽鶴、その数に私たちの胸は熱くなりました。こういったこともあり、われわれは、この公演にあえて「ありがとうフロムジャパン」という名前を冠することにしたのです。これほどの大規模な催事はわれわれも初めてで、とくに司会役を仰せつかった私は緊張しました。公演前に、犠牲者への黙禱、そして新美潤在ロサンゼルス日本総領事や、仙台市と姉妹都市のリバーサイド市のロナルド・ラヴリッジ市長からの挨拶をお願いしたあとで、まずこの映像をみてもらうことにしました。

Arigato from Japan Earthquake Victims

<http://www.youtube.com/watch?v=SS-sWdAQsYg>

私はすでにこの映像を10回以上は見ているにもかかわらず、毎回涙がでてしまいます。津波でその尊い命を失ったテイラー・アンダーソン先生(当時JETとして石巻市に派遣)を慕う子どもたち、悲惨な状況から健気に立ち上がる人々、そして世界各地から、とくにここアメリカからいち早く駆けつけた“トモダチ”たちとの絆を、ありがたく思います。

岩手県の遠野からきてくれた湧水神楽(わくみずかぐら)の皆さんの熱演も、またパワフルでスピード感ふれる鬼太鼓座のパフォーマンスも、ユーモラスな演技で笑いを誘ったけん玉も、すばらしかったです。観客のアメリカ人たちも、泣いたり、笑ったり、すばらしい時間を過ごしながら、亡くなった方々に思いを寄せることができた、公演後に感想を述べてくれました。

実はココロスでの公演には、かわいらしい飛び入り参加の中学生の10人の姿がありました。公演前日、日本語を学ぶ近くの中学校から、男女あわせて20名の7年生(日本の中学一年生にあたる)に劇場にきてもらい、竹で楽器を作るワークショップに参加してもらったのです。このうち、10名が、翌日の本番でも少しステージ上に上がり、一緒に演奏しました。フィナーレで、他の出演者と一緒に、会場からスタンディング・オベーションを照れながら受ける姿のかわいらしかったこと。難しい日本語を勉強していて、よかったなあーと、思ってくれた一瞬だったのはなかったでしょうか。



鬼太鼓座の方々と一緒に竹を切って、楽器を作った地元の中학생たち

公演団の旅は、ニューヨーク国連本部、そしてリンカーンセンターでの公演も大好評のうちに終わり、いよいよこの週末から、パリに向かいます。そして残り6カ所での公演、たくさんの涙と笑いがわき起こることでしょう。



当日、配布されたリストバンド Arigato from Japan (ワシントン DC 在日本大使館提供)

NHKニュースウェブ

1分 20 秒にわたって動画がアップされています。

<http://www3.nhk.or.jp/news/html/20120303/k10013460151000.html>